

第31回 全国キリスト教学校人権教育セミナー

気づき、共に築く人権教育

～新型コロナウイルス危機の中で～

2021年 8月16日（月）～17日（火）

オンライン（ZOOM）開催



主催

第31回全国キリスト教学校人権教育セミナー実行委員会
(メールアドレス zenkiri2021@gmail.com)

全国キリスト教学校人権教育研究協議会
(ホームページ <http://zenkiri.junyx.net>)

【開催の目的】

- ① コロナ危機の中で明確になってきた人権教育の課題について学び、理解を深めると共に、それぞれの現場での取り組みについて考える。またコロナ危機の中で各学校の取り組みについて情報交換し、励まし合う。
- ② キリスト教学校および公私立学校で人権教育に関心を持っている教職員、また人権教育に関心を寄せるキリスト者・市民・保護者・学生の出会いの場をもつ。
- ③ 人権教育の実践に学び合い、分かち合い、建設的な関係を築く。
- ④ キリスト教学校での人権教育のあり方を探求し、人権教育の広がりを作る。

第31回 全国キリスト教学校人権教育セミナー要項

気づき、共に築く人権教育 ～新型コロナウイルス危機の中で～

新型コロナウイルス感染防止対策に追われる中で、子どもたちの「生」がさまざまな形で脅かされています。より明確になってきた課題もあれば、見えなくされている課題もあります。今年はオンラインで繋がりながら学び、分かち合い、励まし合い、一緒に人権教育の中身を作っていきます。

●日 時 2021年 **8月16日(月)** 10時～**17日(火)** 15時
オンライン (ZOOM) 開催

●参加費 6000円 / 学生 3000円

* 7月23日(金)まで、事前振り込みをお願いします。

* 参加費にはセミナー諸費用、ニュース購読・協議会運営協力費が含まれます。

●申込み・振込締切 7月23日(金)までに、下記申込み専用サイトよりお申し込みください。

* 締切日を過ぎた申し込みはお断りします。

* 参加を申し込まれた方には、1週間前までに郵便でハンドブック(資料集)と案内を郵送します。申込書には夏休み中でも郵便物を受け取れる住所をご記入ください。

* 一日目午後の分科会は、先着順で各分科会15人定員です。申込書に第一希望と第二希望の分科会名をご記入ください。

●申込み専用サイト <https://bit.ly/3tAlxRF>

・当協議会ホームページ (<http://zenkiri.junyx.net>) からアクセスできます
(全キリで検索)。 また、下のQRコードを読み取ってアクセスできます。



・パソコンやスマホを使用しない方は、電話 03-3203-0731 (NCC 教育部) にご相談ください。

●参加費振込先 郵便振替口座 00180-9-195504

加入者名 全国キリスト教学校人権教育研究協議会

* 「2021 セミナー参加費」と記入してください。

●問合せ先 メールで zenkiri2021@gmail.com をお願いします。

≪プログラムの内容≫

一日目

【開会礼拝・基調報告】 メッセージ・報告者 大嶋果織さん（実行委員長／共愛学園前橋国際大学教員）

【全体会（1）】 講師 山本秀樹さん（子どもの虐待防止ネットワーク・あいち<CAPNA>副理事長／
元・金城学院中学校<理科・教育相談担当>）

「コロナ危機・相談事例に見る子どもの生きづらさ

～SOSの出し方（子ども）／SOSの受け取り方（おとな・学校）～

2020年1年間の小中高生の自死/自殺者は499名で過去最高でした。子どもの虐待防止ネットワークあいち（CAPNA）には、親のストレスによる子どもへの身体的虐待や両親の面前DVによる子どもへの心理的虐待等の相談が電話やメールで多く寄せられています。子どもが「つらい時、どうやって助けを求めたらいいか」・「友達が悩んでいたら、どうやって信頼できるおとなにつなげたらいいか」・「信頼できるおとなはどこにいるのか」。文科省は緊急事態に対して学校での「SOSの出し方教育」を強調していますが、SOSを受け止めるおとなの力量の方がむしろ心配。そこで今回は、子どもの人権を考える視点に、①「子どもの虐待とDV」、②「若者の自死/自殺」、③「コロナ危機の中でも子どもたちの普通の生活を保障する」、④「体罰で子どもに善悪を教えない」、⑤「信頼できるおとなはどこにいるのか」の5つの視点で話します。

【分科会】

①外国にルーツをもつ「からふるな仲間たち」

発題者 デイビット・マッキントッシュさん（マイノリティ宣教センター共同主事／カナダ長老教会信徒宣教師）

コーディネーター：佐藤信行さん（在日韓国人問題研究所『RAIK通信』編集長）

いま日本には在日コリアンをはじめ、さまざまな国籍の外国人や、日本国籍をとった外国人、日本人と外国人との国際結婚から生まれたダブルの子どもたちなど、計460万人以上の「外国にルーツをもつ人びと」が暮らしています。つまり100人のうち4人が、外国にルーツをもつ人となります。とくにキリスト教学校には、公立学校以上に、多くの外国にルーツをもつ子どもたちが通っています。

デイビットさんはカナダで生まれ、宣教師の両親と共に来日し、大阪の在日コリアンの集住地域に住みながら日本の小学校・中学校に通いました。そのときの体験や、カナダの「多文化共生」、そしていまマイノリティ宣教センターで漫画小冊子『からふるな仲間たち』第1集～第3集の編集作業などを通して、外国にルーツをもつ子どもたちの「アイデンティティ」について、また日本の「多文化教育の可能性」について話してもらいます。

②「沖縄とヤマト」から考える平和と人権

発題者 西浦昭英さん（沖縄・名護在住／元聖学院中学高等学校教員）

コーディネーター：比企敦子さん（NCC 教育部）

私たちは、沖縄で起きる事故や事件、辺野古新基地建設の実態について、限られた報道によってしか知ることができません。埋め立て予定地の大浦湾は、マヨネーズ状の軟弱地盤が広がり建設不可能との専門家の意見が出ているのに、埋め立て工事が強行されています。米軍人軍属による性暴力被害も深刻です。沖縄の諸問題は、沖縄に対するヤマト（本土）の差別と無関心に起因しています。歴史を振り返りつつ、平和と人権の視点から一緒に考えたいと思います。テーマは「沖縄」ですが、参加者からの沖縄以外の平

和や人権の実践報告も分かち合いたいと思います。西浦さんは、2年前に退職をして沖縄に住まいを移し、日々非暴力の抵抗行動を実践されています。

③部落問題入門

発題者 水野松男さん（NCC 部落差別問題委員会／都立高校日本語指導外部人材活用事業講師）

コーディネーター：鳥井新平さん（大阪女学院大学非常勤講師／日本キリスト教団部落解放センター活動委員）

分科会では150年前の被差別部落を皮革職人集団と捉え、現代社会のわたしたちの暮らし、と畜から始まる暮らしと文化をテーマに、部落差別をどのようになくすのか、その教育の内容を考えます。そして、部落出身生徒が自己肯定感、自尊感情を醸成でき、部落差別への抵抗力となること。また、部落出身でない生徒にとっても自身の暮らしや文化に対する気づきとなる教育内容を考えます。

④LGBTクリスチャンと考える ～ セクシュアリティに寄り添うために

発題者 寺田留架さん（約束の虹ミニストーリー）

コーディネーター：佐々木園さん（基督教独立学園高等学校）

生徒からカミングアウトされた時、「具体的に何ができるか」も大切ですが、一番最初に必要なのはその不安や混乱、迷いなどの気持ちにじっくりと寄り添えることです。トランスジェンダー当事者である発題者の寺田さんの実体験を踏まえつつ、セクシュアリティと一緒に向き合うとはどういうことか、またその寄り添いにおけるキリスト教学校ならではの強みや、逆に気を付けるべきことなどもお話しいただきます。

後半は、参加の皆さまと共に感想や疑問、ご意見などを分かち合う時間といたします。素朴な疑問にもお応えしますし、参加者の皆さまで、すでに現場での対応・工夫の経験がある方がいらっしゃれば差支えない範囲で共有していただければ幸いです。

⑤子どもが背負っているもの ～ 居場所を求めて

発題者 林 誠 さん（子どもたちの居場所を地域に創り出す「文楽舎」代表）

井上收之さん（障害を持つ子どもたちが集い学ぶ「かめの子教室」元職員）

コーディネーター：赤嶺容子さん（元・中高養護教諭／家庭裁判所調停委員）

私たちの社会の矛盾は、弱い子どもたちに集中して表れています。学校生活になじめず、家庭にも安らげずに逃げ出す子どもたちがいます。外面的には良い子でいても、自分らしい個性が見いだせず悩む子もいます。子どもたちの心の声が聴こえますか？ 背負っているものが見えますか？ 安心して居られる場所はあるのでしょうか？

この分科会では、学校の外から学校教育と関り続ける発題者たちの話をきっかけに、子どもたちの心の声に耳を傾けたいと思います。教室で気になっているあの子、この子のことを胸に参加してください。

⑥歴史認識とヘイト・スピーチ問題 ～ 隔ての壁と向き合う

発題者 佐野通夫さん（東京純心大学教員）

崔江以子さん（チェ・カンイジャ／川崎市ふれあい館館長）

コーディネーター：李省展さん（イ・ソンジョン／恵泉女学園大学名誉教授）

全世界に配信された大阪の少女の在日コリアンに対するヘイト・スピーチ動画は、多くの人びとに衝撃を与えました。とくに教育に携わる人びとは、このことを深刻に受け止めたと思います。このヘイト・スピーチの根源には、歴史認識をはじめとする教育に関わる問題が潜んでいるように思えます。永年、朝鮮教育史の研究に取り組んできた佐野通夫さんと、ターゲットとされた川崎でこの問題に正面から立ち向か

っている川崎市ふれあい館の館長・崔江以子（チェ・カンイジャ）さんと共に、この問題と向き合っていきたい。

【聖書研究】 講師 渡邊さゆりさん（マイノリティ宣教センター共同主事／彰栄学園宗主任）

「神は泣き声を聞かれ」 創世記 21 章 14 節～20 節

この聖書研究では、「外国人母子」がパンと水の皮袋を背に負い、追い出され、荒野をさまよう物語を取り上げます。教育現場でさまよう児童、生徒、学生とその養育者たちに、私たちは何を聴き、発信し、希望を持って共に歩めるでしょうか。壮絶ないじめ、圧迫された生活の背後にある歪な社会構造に焦点を当ててお話しします。キリスト教学校で学び、聖書科教員として働いている中での失敗、支えられた経験を分かち合う時としたいと思います。

二 日 目

【朝の祈り】 メッセージ 浜崎眞実さん（カトリック横須賀三笠教会司祭）

【全体会（2）】 講師 野平晋作さん（国際交流 NGO ピースボート共同代表）

「国境を越えた市民交流で学んだこと」

私はピースボートで世界をめぐることで、世界各地の課題を知るだけでなく、むしろ日本が抱える問題に向き合うきっかけとなりました。朝鮮民主主義人民共和国を訪れて感じた日本のマスコミ報道の問題点、イスラエル、パレスチナの若者たち 70 名と共に航海しながら、彼（女）らが討論するのを聞いて、アジアの中の日本について、より深く考えさせられたこと、インド、パキスタンでヒバクシャの写真展を開催したときの市民の反応など、国境を越えた市民交流を通して学んだことについてお話します。

【わかちあい】

各分科会で提起された諸問題について共有します。自分が出られなかった分科会でどんな話が出たかを分かち合い、それぞれのテーマを結びつけていきましょう。

【派遣礼拝】 メッセージ

【全国キリスト教学校人権教育研究協議会（全キリ）会員総会】

全国キリスト教学校人権教育セミナーは 1990 年から始まり、毎年 8 月、全国セミナーを開催してきました。そして 1994 年、「全国キリスト教学校人権教育研究協議会」を結成して、現地実行委員会と共に、全国セミナーを企画し開催してきました。これまでの活動報告を受けて、これからの取り組みをみんなで考えていきます。セミナーに参加された方は会員ですので、ぜひご参加ください。

「全キリグラウンド・ルール」とは、「人権教育セミナー」に参加されるすべての方たちが、セミナー中や終了後も不快な思いをせずに気持ちよく過ごすための基本的な約束事です。セミナープログラムはもとより、協議会の総会の進め方などにも適用される内容です。

(2009年8月6日発足、2015年8月17日改訂、2019年8月6日改訂、2021年6月オンライン版作成)

全キリ グラウンド・ルール（オンライン版）

初めて参加される方への配慮と共に、以下の点についてどうぞご協力ください。

1. オンラインセミナーとしてのお願いとご注意

- ・申込者本人（ミーティング ID や招待 URL を入手した方）以外の参加は固くお断りいたします。
- ・お互いの顔が見えるように、カメラは原則「ON」にしてください。（ご事情がある場合は主催者・分科会の司会者にその旨お伝えください）
- ・発言される時以外は「ミュート」にしてください。
- ・個人での録画、録音、スクリーンショット等の撮影は禁止です。主催者側が必要に応じて録画などの記録をとります。
- ・差し障らない限り、画面には参加申込時の名前を表示してください。（正規の参加者と、そうでない方を判別するためです）
- ・参加者用リンクは、申込をされた方だけにお送りしています。他の方には公開なさないでください。
- ・ZOOM の利用自体は無料ですが、参加や資料のダウンロードに関わる通信料などは各自の負担になります。スマホなどの料金プランによっては月の利用枠を使い切ってしまう可能性や、別途料金がかかる場合があります。ご自身でご確認の上、ご参加ください。

2. 守秘義務を守ってください。

- ・セミナーで見聞きした個人情報、その場のみにとどめてください。名前・所属・写真・事例などを、本人の許可なく他者に漏らすことは「アウトティング」となり許されない行為です。
- ・インターネットではマイノリティに対する不当なヘイトスピーチがまん延しています。SNSをはじめ、ソーシャルメディアへの安易な投稿は絶対に避けてください。
- ・セミナー報告を他の媒体に掲載する際、とくにマイノリティ当事者が講師の場合、必ず本人の了解をとって報告記事をまとめるようにしてください。詳細については事務局にご相談ください。

3. セミナーにはさまざまな参加者がおられます。

- ・参加者の中には、自分とは異なる生活スタイル・価値観・問題をもっている方がいることを理解しましょう。
- ・自分の国籍・セクシュアリティ・経済的状況・職場の状況などを話したいとは限りません。ご自分が話したくないことは話さなくても全くかまいません。
- ・自分と異なる意見に対して批判的になったり、決めつけたりしないように気をつけましょう。
- ・セミナーの目的からかけ離れた個人的な宣伝はご遠慮ください。

4. 言葉による暴力・セクハラ・パワハラは厳禁です。

- ・たとえ怒りなどの感情をもつことがあったとしても、それを他の参加者に向けて攻撃したりしないようお願いいたします。
- ・参加者や当事者が不快に思う言動は、ハラスメントです。

(NPO法人ぶれいす東京編集・発行の「グラウンド・ルール」他を参考にさせていただきました)